

比較家族史学会第48回研究大会

日本比較家族史学会（会長：岩本由輝・東北学院大学教授）の第48回研究大会（実行委員長：戒能民江・お茶の水女子大学教授）が2006年5月20日（土）～21日（日）の2日間にわたって文京区のお茶の水女子大学で開催された。今回の大会は副会長である戒能教授がお茶の水女子大学21世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」(F-GENS) の拠点リーダーを務めておられることから、同プログラムとの共催で実施され、大会全体が「グローバル化のなかの家族とその変容—アジアにおける家族とジェンダー—」というテーマのシンポジウムとして行われた。その結果、以下のプログラムの通り、多くの報告が人口と少なくとも間接的に関連するものであった。

シンポジウム 「グローバル化のなかの家族とその変容—アジアにおける家族とジェンダー—」

司会 戒能民江・三成美保（摂南大学）

趣旨説明 戒能民江

<第1部 東南アジア・南アジアにおける家族>

「家族のため」とは誰のため？—海外就労とフィリピンの家族をジェンダーから考える—

小ヶ谷千穂（横浜国立大学）

植民地インドにおける「家族」のイデオロギーの諸相

粟谷利江（東京外国語大学）

<第2部 東アジアにおける家族>

中国における人口政策の変動と生殖コントロールの浸透—上海を中心に—

小浜正子（日本大学）

家族というジェンダー・ポリティックス—韓国の戸主制廃止をめぐる女性・市民社会・国家—

申キーヨン（お茶の水女子大学）

日本におけるシングルマザー政策の展開

湯澤直美（立教大学）

近現代日本の生／性の政治とジェンダー家族

牟田和恵（大阪大学）

<第3部 比較のなかの家族>

ヨーロッパにおける家族と家族法の変容—法は家族を定義できるのか—

床谷文雄（大阪大学）

規範理論における「家族」

岡野八代（立命館大学）

比較と総括—ジェンダー法史学からの問題提起—

三成美保

なお、本年の秋季研究大会は11月18日（土）に立命館大学衣笠キャンパスで開催され、第49回研究大会は来年の5月下旬に神戸大学で開催される予定である。（小島 宏記）

日本経済政策学会第63回大会

日本経済政策学会（会長：丸谷治史・神戸大学教授）の第63回大会（大会運営委員長：杉野元亮・九州共立大学教授）が2006年5月27日（土）～28日（日）の2日間にわたって北九州市の九州共立大学で開かれた。今回は「『効率』と『安心』の経済政策—戦後60年日本経済の回顧と展望—」がテーマとなっており、そのテーマの下に初日には共通論題報告・討論が行われ、2日目には18の自由論題報告セッションが設けられた。下記の通り、今回の共通論題の報告者全員が当研究所の関係者（研究評価委員、OB）で、討論者にも関係者（機関誌編集委員）が含まれていた。